

大豆栽培管理情報 (第5号)

平成 29 年 7 月 21 日
アルプス農協管内農業技術者協議会

1 うね間かん水の実施

- 開花期から9月上旬の間、3日以上晴天日が続いたら、土壌の乾きに応じてうね間かん水を行いましょ。
- かん水は短時間で行い、圃場全体に水が行き渡ったら、速やかに排水しましょ。
- 地域での計画的な用水の利用を行いましょ。



うね間かん水の効果

- 着莢数の確保
- 百粒重の増加
- 品質の向上

2 病虫害防除

- ウコンノメイガの常発地では、幼虫による葉巻の発生状況を確認したら、速やかに防除しましょ。
- 紫斑病・カメムシ類等の病虫害を対象とした2回の基本防除を徹底しましょ。
- 農薬の使用基準を守り、周辺への飛散防止に努めましょ。

《病虫害防除の目安》

		随時防除	基本防除		随時防除
散布時期		7月下旬～8月上旬 【葉巻きを発見したら】	8月上～中旬 【莢が伸びきった頃】	8月下旬 【枝豆程度の頃】	8月下旬～9月中旬 【被害を発見したら】
対象病虫害 農薬名 散布量	粉剤体系	ウコンノメイガ	紫斑病、カメムシ類、 マメシクイガ	紫斑病、カメムシ類、 アブラムシ類	ハスモンヨトウ、マメシクイガ、 カメムシ類、アブラムシ類
		サイアノックス粉剤 4 kg/10a	スミチオンベルコート 粉剤DL 3 kg/10a	Z ボルドートレボン 粉剤DL 4 kg/10a	トレボン粉剤DL 4 kg/10a
	液剤体系	ウコンノメイガ	紫斑病、カメムシ類、 マメシクイガ等	紫斑病、カメムシ類	ハスモンヨトウ、マメシクイガ、 カメムシ類、アブラムシ類
		プレバソン フロアブル5 4000倍 150 ℓ/10a	マネージ DF 3000倍 + ダントツフロアブル 2500倍 150 ℓ/10a	アミスタートレボン SE 1000倍 150 ℓ/10a	トレボン乳剤 1000倍 150 ℓ/10a

3 雑草防除

- 圃場周辺での、イヌホオズキ類等帰化雑草の早期発見に努め、開花・結実前に抜き取りしましょ。
- 雑草が残っている圃場では、非選択性除草剤を散布しましょ。

《除草剤散布の目安》

除草剤名	使用時期	適用雑草	10a 当り使用量	使用回数
バスタ液剤	雑草生育期 ・うね間処理 ・株間処理(本葉5葉期以降) ただし、収穫28日前まで	1年生雑草	300～500mℓ (水100ℓ当り)	ゲルホシネット(バスタ) 及び ゲルホシネットP(ザクサ)
ザクサ液剤	雑草生育期 ・うね間処理 ただし、収穫28日前まで	1年生雑草	300～500mℓ (水100ℓ当り)	3回以内

※非選択性除草剤のため、大豆の葉や周辺作物にかからないように散布する。

次の大豆栽培管理情報(大豆の収穫時期)は9月下旬頃に発行予定です。